

## <ケロイドと肥厚性瘢痕>

皮膚が傷ついたあとに元通りに治らずにキズ跡が盛り上がり目立つようになったものを「ケロイド」や「肥厚性瘢痕」と呼びます。

ケロイドと肥厚性瘢痕の区別は難しいのですが、一般的に、「ケロイド」は赤褐色に盛り上がった硬い腫瘍で、激しいかゆみや、痛みを伴うことが多く、腫瘍の形が複雑で表面の凹凸が強いものでは、深部で感染(化膿)を起こし、排膿(うみが出る)を繰り返す場合もあります。またもとのキズ跡よりはみ出して広がることが多いと言われ、自然に治ることはまれであり、軽快後も再発することがあります。一方、「肥厚性瘢痕」はさまざまな程度の赤味を伴った盛り上がりと言われ、もとの傷跡よりはみ出して広がることは少なく、自然に平らになることもあります。

ケロイド、肥厚性瘢痕の原因としては、けが、やけど、手術後のキズなどがあげられます。ケロイドは、遺伝的要素(体質)が影響していると言われてます。

またケロイドや肥厚性瘢痕が顔面や関節部にかかる場合はひきつれ(拘縮)を起こし、美容的な問題や運動障害の原因となります。よくできる場所は肩、胸、下腹部や恥骨部などです。また最近ピアス穴をあけた耳たぶにも多く見られます。



ケロイド



肥厚性瘢痕

### 【治療法とその効果】

#### I、保存的治療

- 1、内服治療(抗アレルギー剤を内服します。)
- 2、圧迫療法(スポンジによる圧迫やシリコン製のジェルシートを貼ることで盛り上がりを抑えます。)
- 3、外用剤による治療(ステロイド剤の入ったテープや、ステロイド剤軟膏を使用します。)
- 4、ステロイド注射(主にケロイドに対して行ないます。ステロイドの注射液を盛り上がった部分に注射します。)

#### II、手術治療

ケロイド、肥厚性瘢痕の治療は保存的(手術を行わない)治療が第一です。手術治療は保存的治療の補助手段と考え、手術を行っても再発予防のために保存的治療を早期から行う必要があります。ケロイドは、安易に切除を行って再発を起こすと、元のケロイドより大きくなってしまふこともあり、注意が必要です。症例によっては手術後早期からの照射線(電子線)照射が有効とされています。